



▲屋上から赤岡地区が一望できます

山崎早智校長は、「本校は、生徒一人ひとりが自分らしくいられる場所であり、先生たちもその良さをみつけて応援します。社会の役に立つことで幸せを感じられる人になってほしい、そして『人の役に立ちたい』という気持ちを持つ人はぜひ本校へ来てほしい」と語ります。

県内の中山間等の地域に位置する小規模高校13校では、それぞれの学校の魅力を地域の人たちとともに掘り下げる取り組み「地域コンソーシアム」が始まっています。城山高校もその中の一校です。

城山高校が掲げる独自のテーマは「防災と福祉」。城山高校の校舎部分の海抜は約9メートル、北側の体育館付近は約11メートルと、赤岡地域の中でも高い場所に位置する同校は、市の指定避難所および津波緊急避難場所にも指定されています。

独自の魅力を発信。 「地域コンソーシアム」

10月末の文化祭では、初めて防災をテーマにした企画も予定しています。こうした実践を通して、「なに「やってみる」だけではなく、「なぜそうするのか」「もっと良くする



▲市職員による防災学習では、生徒から積極的に質問がされました



▲避難訓練では、避難用外階段を使って屋上へ

こうした立地を生かし、まちにとって必要とされる「防災」を取り入れた学びを、地域の人たちと一緒につくり、高めていくことを目指しているということです。

9月には赤岡中学校と合同で避難訓練と防災学習を行いました。

清掃活動、お祭り、運動会の準備など、地域のお手伝いにもたくさん参加しています！

Instagramを開設しました！



にはどうすればいいのか」と考え、自ら行動する力を育んでいます。

まちの未来をつくる力へ

創立80周年を迎えた城山高校。高台に位置する「立地」、一人ひとりに寄り添える「小規模校の環境」、そして、人とのつながりの中で学ぶ「福祉教育」。これらの強みを生かし、まちを支える学校として、新たな歩みを進めています。

自分も他者も一人ひとりを尊重しながら、身近な課題を「自分ごと」として捉え、考え、行動する人を育てることが学校の目標です。城山高校の取り組みは、まちの未来をつくる力につながっています。



創立80周年

高知県立城山高等学校

～「私」が「私らしく」いられる学校。まちとともに～



緑が多く明るい高台に建つ高知県立城山高等学校は、今年で創立80周年という節目を迎えました。「城山」という校名は、香宗我部氏の出城であった「須留田城(するだじょう)遺跡」に由来し、まちの歴史とともに歩んできた香南市唯一の県立高校です。

(担当 広報編集委員 森本美穂)



▲家庭型の調理実習

小規模校の強み

県立城山高等学校は、戦後まもない1946年、商業地域として栄えた旧赤岡町に県立城山中学校・同高等女学校として開校しました。1950年代には、一学年に1200人の生徒が在籍していた同校も少子化の波とともに、現在は全生徒数65人の小規模校となっています。

活動の規模に限りがある一方で、小規模校だからこそできる「生徒一人ひとりに寄り添ったきめ細やかなカリキュラム」が特徴です。同校は、普通科「単位制」を導入しており、2年次以降は福祉型・家庭型・文理型・商業型の4つの型から自分の進路や興味に応じて科目を選択し、3年間で卒業に必要な単位を修得します。必修科目以外にも、外部講師を招いた専門実習、高齢者施設・保育所への訪問や地域でのボランティアなど、生徒たちは自分の希望する進路を目指し、さまざまな体験を通して学びを深めています。



▲生徒会のメンバー

生徒に城山高校での学校生活について聞くと、「生徒も先生も全員の距離が近くて仲がいいです。勉強で分からないところもきめ細やかにサポートしてもらえるので自信ができました」と笑顔で話してくれました。

また生徒会の活動について聞いたところ、「時代に合った校則の提案、お世話になったまちへの恩返し、さらには海外姉妹校提携のような国際交流など、新しいことに挑戦して後輩にもつないでいきたい」と意欲を語ってくれました。

チャレンジから自信へ



▲福祉型の車いす操作実習

城山高校 創立80周年記念文化祭

創立80周年を記念し、レスリングコーチ・櫻井優史さん(櫻井つぐみ選手の父)による特別講演や、「防災×クイズ」・非常食アレンジスイーツの試食など、生徒たちがアイデアを出し合い「防災」をテーマにした企画に取り組んでいます。いざという時に役立つ知識を生徒たちと一緒に楽しく学んでみませんか？ぜひご家族やご友人とお誘い合わせの上、お越しください！

日時 10月24日(土) 8:50~15:00

場所 高知県立城山高等学校
※駐車場あり

問い合わせ
高知県立城山高等学校
☎0887-55-2126(9:00~16:30)

